

実りの秋、そして収穫の秋。そらいろのふるさとでは、田んぼの稲刈りが始まりました。遠く吾妻連邦、安達太良連峰の峰々も初秋の澄んだ空気にくっきりとシルエットをみせています。まもなく紅葉、やがて白い季節となります。



# 目からウロコ 認知症の見方が変わった！

## 三好春樹さんの介護セミナーを開催しました

そらいろデイの始まりのきっかけをつくった三好春樹さん（生活とりハビリ研究所代表）=写真右=を招いた介護セミナーが、ようやく実現することができました。8月27日、桑折町イコーゼの多目的スタジオで開かれたセミナーには、地元の介護職やケアマネージャーの方々、ご家族の皆さんたち51名が参加されました。

セミナーのテーマは「認知症のケア～人間学を根拠に～」です。認知症は病気。認知症にだけはなりたくない。認知症になったら人生おしまい。こうした負のイメージばかりが協調されていますが、三好さんは認知症の原因

「仁之介さん」「ロシア事件」などユーモアたっぷりのエピソードを交えて



大暴れする森田仁之介さんのお話や「ロシアに行く」といって出ていこうとする「ロシア事件」など、これまでの経験に裏打ちされた笑いあり、涙ありのエピソードを交えながら「納得」のお話してくださいました。

参加された方々からは、「目からうろこ、認知症への見方が変わった」「介護と医療の役割の違いがよくわかった」「介護の世界をもっと知りたい」などさまざま意見をいただきました。共催としてご協力いただきました桑折町社会福祉協議会のみなさまに誌面を通して改めて御礼申し上げます。

### 介護職やケアマネジャー 家族の方や一般の方など 51名が受講されました

「治す」のではなく「暮らす」

「生活者」への視点という介護の本質を学ぶ

熱心に耳を傾ける参加者のみなさん



は老いであること。認知症によるさまざまな症状を「老いによる人間の変化」としてとらえること。そして医療の「治療する」という視点からではなく、「暮らす」という視点を持つこと。それが「いい介護」につながることを教えてくださいました。

さらに「介護」と「医療」の違いについて、認知症高齢者を「患者」ではなく「生活者」としてとらえること。治療の対象として「身体」をみるのではなく、生活者としての「人生」をみること。そして「明日」を見るのではなく、「今、ここ」を大切にするという、生活リハビリの基本的な考え方を提示してくれました。

三好さんは、高校3年生の頃に学生運動を主導したことから退学となります。職を転々とした後、特別養護老人ホームに生活指導員として就職したのが介護との出会いです。その後、50年にわたって介護現場に関わりながら、医療的アプローチではない生活リハビリという新しいケアの体系を確立してきた方です。セミナーでは、



桑折町多目的スタジオイコーゼで開催されたセミナー